



学会発表と論文発表

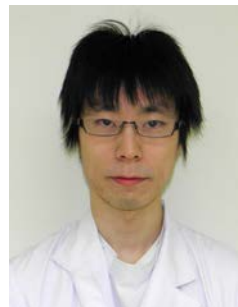
☆推薦文☆

山本翔太郎先生は医学部6年の時に、フリーコース・スチューデントとして当科に6ヶ月間所属し、その間に、関節リウマチの治療薬であるTNF阻害薬が結核症の診断に用いられるツベルクリン皮膚試験に影響を与えるかという重要な臨床的・クエスチョンに一つの解答を与えてくれました。その成果は、採択率が低いことで有名な米国リウマチ学会でポスター発表されました。卒業後、栃木と広島の遠距離恋愛を続けながら、本論文の完成に至り、彼の初めての原著論文が、品格高いアジア環太平洋リウマチ学会誌に掲載されたことは、彼の今後のキャリアに相応しいと思われまじ、私が少しでもお役に立てたのであれば、この上ない光栄です。今後も地域医療の現場で生まれた臨床的・クエスチョンを原著論文として世界に発信し続けて下さい。

自治医科大学内科学講座アレルギー膠原病学部門 永谷勝也

自治医科大学附属病院 アレルギー・リウマチ科 山本翔太郎（広島県35期卒業）

皆様、はじめまして。現在私は自治医科大学附属病院アレルギー・リウマチ科で後期研修をしています。前職（神石高原町立病院）中に“Unaffected reaction level in tuberculin skin test by long-term therapy with tumor necrosis factor inhibitors for rheumatoid arthritis.”¹⁾が掲載されることとなり、このような機会をいただくことができました。これは元々私が医学部6年のフリーコース・スチューデントの期間を使って2011年にシカゴで開催された米国リウマチ学会（American College of Rheumatology, ACR）にポスター発表したものに考察を加え投稿したものです。当時は学生にも関わらず貴重な機会をいただくことができ、私自身のサブスペシャリティを決める上で一番大きな影響を受けたものになります。2011年にアレルギー膠原病学教室の冨田教授から前任者退職に伴い解析されていないデータがあるので、それでACRで発表することを目標にといただいたことがきっかけでこのテーマに触れることとなりました。そのため、この場で報告されている諸先輩方とは異なり、研究デザインを考えることはありませんでした。



実際にデータの一覧をいただき、カルテを確認しながら必要なデータを追記し、統計解析をしました。その結果、私たちのデータでは1年以上TNF阻害薬であるinfliximabやetanerceptを関節リウマチ患者に投与してもツベルクリン反応は抑制されることが分かり、それをACRで発表することができました。

学会発表だけでは記録に残らないため論文にすることを強く勧められましたが、初期研修でバタバタとしてしまい時間がないことを理由にしばらく手をつけませんでした。2013

年、2015年に日本リウマチ学会で夔田教授にお会いできた際に“ツ反を論文にしよう”とアドバイスをいただいたこと、遠方でもご指導いただける先生がいらっしゃったこと、前職の神石高原町立病院に赴任し時間に余裕ができたこと等様々なめぐり合わせで論文作成にとりかかりました。論文作成をするにあたって地域にいてもインターネットで多くの文献は入手でき、ご指導もメールで仰ぐことができ、統計もEZR²⁾で行うことができ、不便を感じることはありませんでした。佐藤教授、永谷先生とメールでご指導いただきながら論文作成を行っていましたが、当時のデータではinterferon- γ release assays (IGRA; クオンティフェロン[®]やT-スポット[®])はなく考察が難しくなりました。この点が特に大変で、特にご指導いただきました。同時に論文にするあたり基本的と考えられる書き方、本文の構成等を一つ一つ丁寧に教えていただきました。2016年8月から雑誌への投稿を開始しましたが、なかなかよいコメントをいただくことが出来ませんでした。最終的に5ヶ月してreviewerからコメントをいただくことができ、修正を加え掲載されることとなりました。

今回のことから私自身学んだことが多くありました。もちろん、その中には論文の投稿に関することもありますが、一番今後活かしたいことは、研究がまとまったら可及的速やかに論文発表することがいかに重要であるということです。論文テーマのアイデアのこともありますが、当時の常識と今の常識は違うものになり、今回の論文ではIGRAのデータがないことが問題となりました。当然ですがデザインで計画されていない情報は欠落してしまうので、まとめるまでに時間が経過してしまうと、いかにしっかりと研究デザインをしてもこのようなことになってしまうと経験することができました。現在は今回の経験を活かし神石高原町立病院で経験した症例を投稿中であり、今後も臨床で勉強しながら臨床研究や症例報告をしていきたいと思っています。最後になりましたが、ご指導いただきましたアレルギー膠原病学教室の夔田教授、佐藤教授、永谷先生に拝謝いたします。呼吸器内科坂東教授には貴重なご意見を頂きましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

- 1) Yamamoto S, Nagatani K, Sato T, Iwamoto M, Takatori S, Minota S. Unaffected reaction level in tuberculin skin test by long-term therapy with tumor necrosis factor inhibitors for rheumatoid arthritis. *Int J Rheum Dis.* **20**: 584-588, 2017.
- 2) Kanda Y. Investigation of the freely available easy-to-use software 'EZR' for medical statistics. *Bone Marrow Transplant.* **48**: 452-458, 2013.

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7477 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp
https://www.jichi.ac.jp/dscm/